

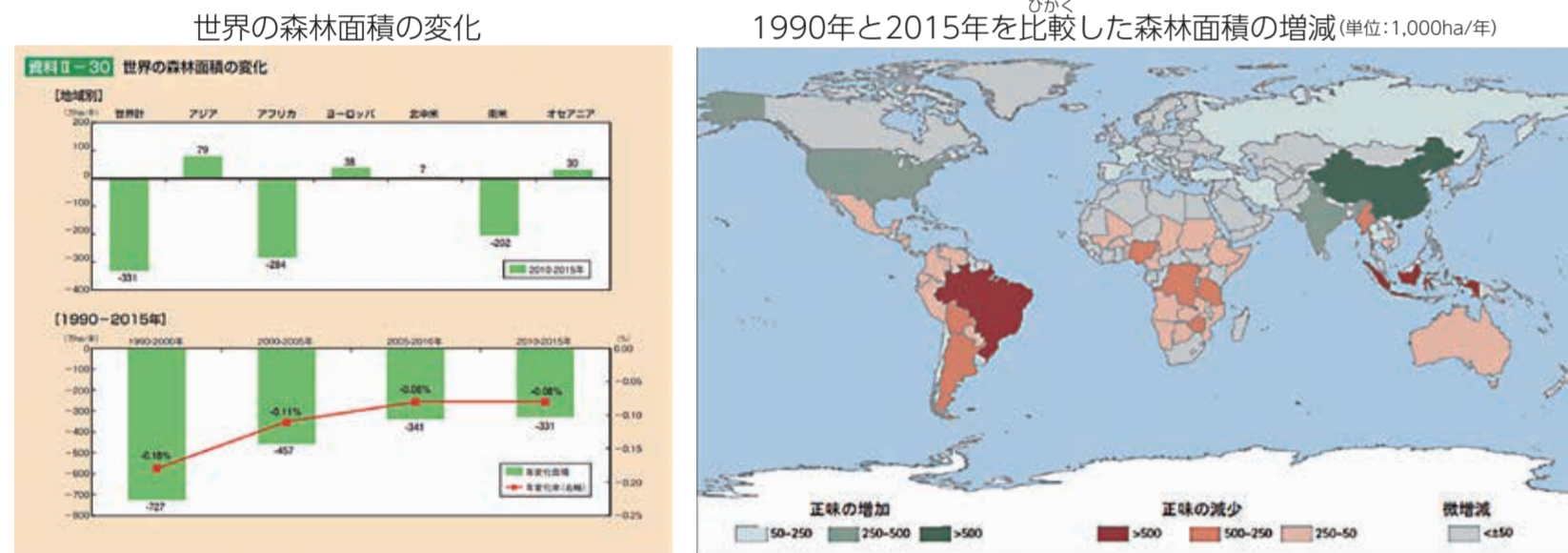
今、私たちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。

かんきょう 環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

世界の自然環境

世界でも失われつつある森林

2015年の世界の森林面積は約40億ヘクタールで、全陸地面積の約31%を占めています。しかし、世界の森林は減少を続けており、2010～2015年は、平均して毎年約330万ヘクタールの森林が減少しています。また、1990年と2015年で森林面積の増減を比較した地図では、アジアなどの温帯地域で増加がみられる一方で、南アメリカ、インドネシア、アフリカなどの熱帯地域では、森林面積が大きく減少していることがわかります。



森林の減少による生き物への影響

森林には、樹木や草花などの多くの植物が生育しています。また、その植物の花や実をえさとしたり、木の幹や土の中などをすみかにしたりしている動物もたくさん生息しています。その数は、陸地にすむ動植物種の2/3以上にもなるといわれてます。これらの生き物は森林の中で複雑な関係を築いています。

このように森林は生物多様性*を保つ上で重要な役割を担っているため、森林の減少は、生き物に大きな影響を及ぼしています。

生物多様性の宝庫である熱帯林も例外ではなく、熱帯林の減少に伴い、そこに住む動植物も毎日約100種が消失しているといわれています。



*生物多様性…人間も含めて、全ての生き物がお互いに関わり合って生きていること。

森林減少の原因

土地利用の転換

世界的な食料やバイオ燃料等の需用増加により、森林を伐採してアブラヤシ(パーム油)農園やサトウキビ農園、牧場などに変える土地利用の転換が増加しています。熱帯地域の森林減少の約8割は、こうした森林の農地転用によるものとされています。



焼き畑農業の増加

焼き畑農業は、森林を伐採して焼き払い、数年間農地として利用した後に、自然の回復力で森林に戻すサイクルを繰り返す農法です。しかし近年、森林が回復しないうちに再び焼いて農地として活用することがあり、森林が再生しなくなってしまう問題が起っています。



燃料用木材の過剰な採取

世界の木材需要の約半分は燃料としての利用です。開発途上国では日常生活の燃料として薪や炭を利用しており、アフリカでは木材の約9割が燃料として使われています。



森林火災

落雷や、干ばつ・猛暑などによる自然発火のほか、焼き畑農業や農地開発のための火入れ、たき火の不始末などが原因となって火災が発生し、森林が焼失しています。



違法伐採問題

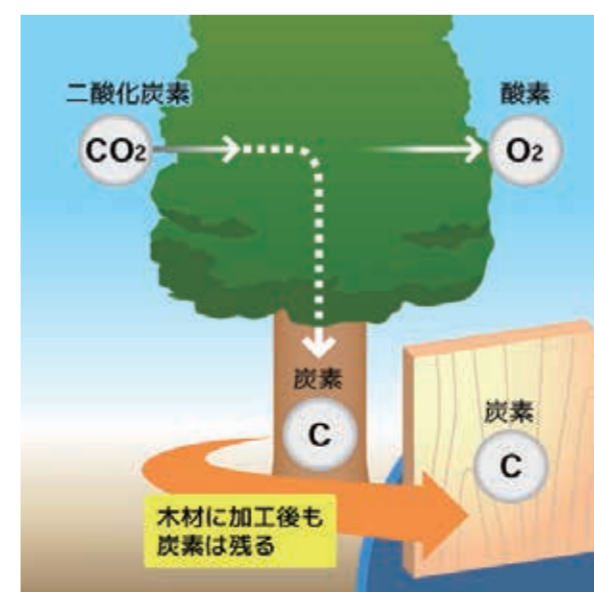
それぞれの国の法律に反して行われる違法な伐採が、持続的な森林経営を難しくしています。違法伐採された木材の多くが丸太や木材として不当に安い価格で輸出され、木材の国際市場の価格が下がることで、輸入国の林業に打撃を与えて森林保全を困難にしています。

環境と木材

木は光合成を行い、水や光、二酸化炭素を吸収して酸素を出します。このとき、大気中から炭素を取り出して、木の中にたくわえています。

炭素は木が燃えたり、腐ったりしないかぎり、大気中に戻ることなく、木の中にとどまります。

家や家具などの材料となる木材も炭素をたくわえているため、木をたくさん使うことは、森をつくるのと同じような効果があります。

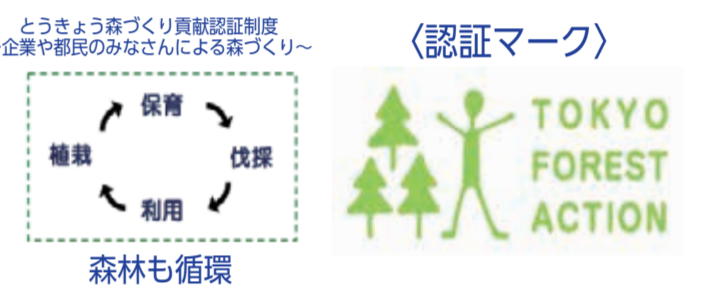


東京都の取組

東京都の自然環境を守っていくため、保全地域を指定するとともに、「江戸のみどり登録緑地」、「花の都プロジェクト」、「緑化計画書制度」による緑の創出、「校庭の芝生化」など、さまざまな施策を進めています。

とうきょう森づくり貢献認証制度(平成24年)

森林の整備と木材利用の促進により、森林の循環を再生し、東京都の森林を次世代に引き継ぐための取組です。



日本の取組

自然再生推進法(平成15年)

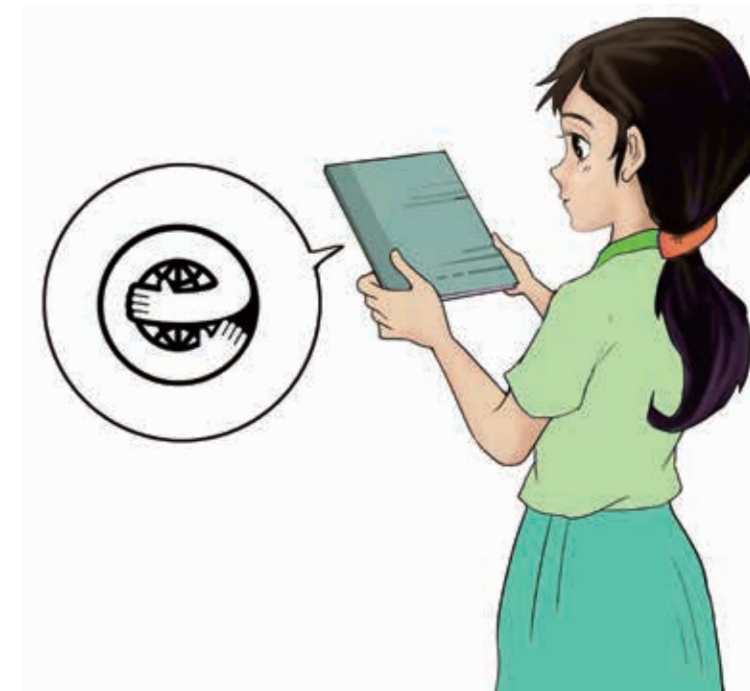
生物多様性を保ち、自然と共生する社会の実現を図るための法律で、保全、再生、創出、維持管理の四つの方法によって生態系その他の自然環境の再生を目指します。

グリーン購入法(平成12年)

循環型社会形成推進基本法の一つとして制定されました。国や地方公共団体等に、環境への負荷の低減に配慮した製品やサービスを優先的に購入すること(グリーン購入)を義務づける法律です。



自分にできる取組を考えよう



自然にやさしい商品を購入しよう



地域の活動に参加しよう